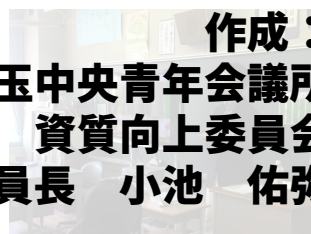
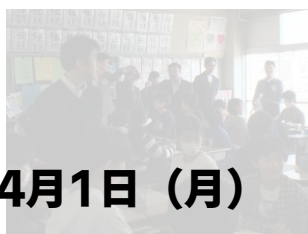
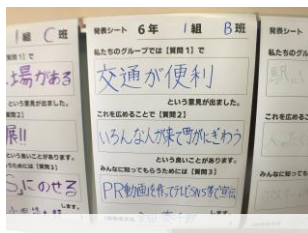


若者がつくる未来プログラム

～みらいくinさいたま～

実施報告書



作成日：2019年4月1日（月）

作成：
公益社団法人 埼玉中央青年会議所
2019年度 資質向上委員会
委員長 小池 佑弥

はじめに (本プログラムの実施にあたり)

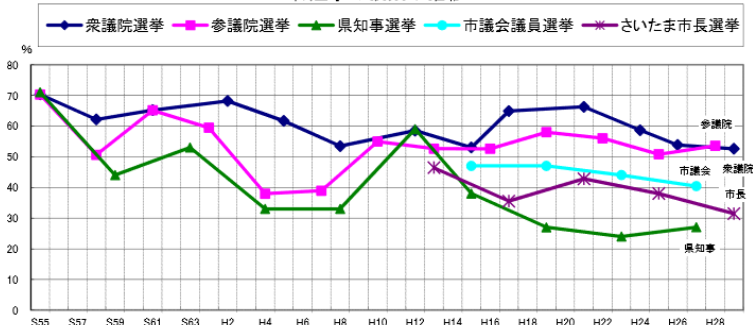
地域の健全な発展においては有権者の積極的な政治参画・投票意識が欠かせません。しかし、2016年に選挙権が18歳まで引き下げられて以降、埼玉県においても10代～30代までの投票率は依然として低い状況にあります。

我々、埼玉中央青年会議所では、若者の政治参画意識の向上を目的として、成長過程の早い段階で「当事者としての自覚をもって考えることの大切さ」を学ぶプログラムを推進しています。

今回、さいたま市立浦和大里小学校様にご協力をいただき、本プログラムの中で多くの児童の皆さまにご参加いただきましたので、これからの教育環境構築の一助となればと考え、ご報告させていただきます。

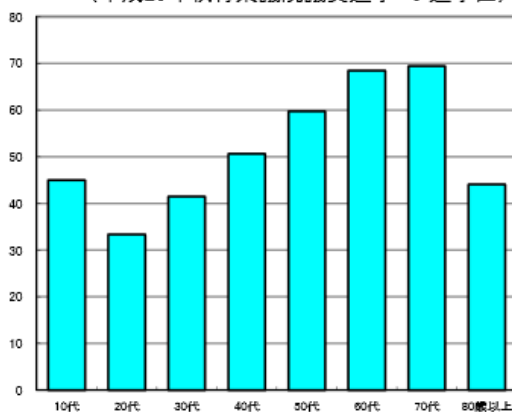
お忙しいこととは存じますが、ご一読いただけますと幸いです。

各選挙の投票率推移



出典:さいたま市選挙管理委員会事務局 平成30年度局運営方針

年代別投票率
(平成29年執行衆議院議員選挙・小選挙区)



【1】プログラム概要	P04
------------	-----

【2】プログラムの流れ	P06
-------------	-----

【3】投票結果	P08
---------	-----

【4】本プログラムの効果	P13
--------------	-----

【5】まとめ	P16
--------	-----

【6】その他：メディア掲載実績	P19
-----------------	-----

事業名称

若者がつくる未来プログラム
～みらいく in さいたま～

対象者

さいたま市立浦和大里小学校 6年生 142名

日時

2019年03月05日（火）
12:50 ～ 15:50
（5限目・6限目）

事業目的

子どもたちが、自身の考えを主張する未来の主権者としての意識を育むことを目的とします。

概要

子どもたちが、身の回りの考えと真剣に向き合い取り入れながら、「投票」という手法を用いて自身の意思表示をすることで日本で行われている政治を体験をします。

本プログラムでは、実際の投票用紙や記入台を使用し、投票用紙も自作で本番に近いものを作成しました。



左写真【投票箱】：南区の選挙管理委員会様よりお借りしました。



左写真【投票記入台】：南区の選挙管理委員会様よりお借りしました。

右写真【投票用紙】：実際の投票用紙で使用されているユポ紙を使用し、自作しました。



児童同士が互いの意見を取り入れながら、自身の主張を構築し実際の選挙と同じ環境で模擬投票を行います。

児童は授業で行った問題解決のプロセスと日本の政治で行われていることが同じであることを学びます。

※時間は、35名（5グループ）でのスケジュールで記載

時間		概要	作業
5 限目（13：45～）			
1 分	（1分）	1. 導入	講師と団体の紹介
5 分	（4分）	2. 私たちとまち	授業の目的と内容を説明します。また、事前課題について数名に発表してもらい、良い雰囲気を作ります。
33 分	（28分）	3. みんなのまちを広めよう	児童が事前に考えてきた意見を基に、自分たちのまちを広く知ってもらうという目的に対し、手法や展望についてディスカッションしてグループ毎に政策をまとめます。
45 分	（12分）	4. 政策発表	取りまとめた政策をグループの代表者から全体に対して発表する。それ以外の生徒は有権者に見立てて代表者の意見を聞き次の投票につなげます。
50 分	（5分）	休み時間	
6 限目（14：35～）			
80 分	（30分）	5. 模擬投票	投票の流れやルールを説明し、児童が発表のあった政策に対して自分の考えに合っているものを取捨選択し投票します。
90 分	（10分）	6. まとめ	授業で行った一連の流れは日本の政治でも同じことが行われていることを伝え、政治を身近に感じてもらいます。また、投票行動は自身の意思表示であり、主張することの大切さについて伝えます。
95 分	（5分）	7. アンケート	当プログラムを振り返り、アンケートに記載

次ページに実際の様子を記載しております。



① 導入（5限目）：
授業の主旨について説明します。



② 話し合い（5限目）：
「みんなのまちを広めよう」というテーマでグループワークを行います。



③ 発表（5限目）：
グループ毎でまとめた政策を発表します。



④ 投票（6限目）：
受付で投票用紙引換券を渡し、投票用紙と交換します。



⑤ 投票（6限目）：
投票所には、各グループで発表した内容が張り出されています。



⑥ 投票（6限目）：
投票用紙記入場所で、政策を提言した代表者の氏名を投票用紙に記入します。



⑦ 投票（6限目）：
本物の投票箱に投票します。



⑧ まとめ（6限目）：
投票結果の発表とともに、自身で考えて意思表示をすることの大切さを伝えます。

児童には事前に以下について考えてきてもらい、プログラム当日、周りの意見を踏まえて一つの政策にまとめました。

なぜなぜ課題（事前課題シート）

年 組 番 氏名

【質問1】

・自分が住んでいるまちの「良いところ」「自慢できること」ってなんだろう？

【質問2】

・【質問1】の「良いところ」「自慢できること」をいろんな人に知ってもらくと、どんな良いことがあるだろう？

【質問3】

・【質問1】の「良いところ」「自慢できること」をいろんな人に知ってもらうために、どんな工夫をすればいいだろう？

※授業のグループごとの話しあいの時に自分の考えを発表します。

次ページより各クラスで一番得票数の多かった政策を記載します。

テーマ

みんなのまちを広めよう！！

発表シート 6年 1組 B班

私たちのグループでは【質問1】で

交通が便利

という意見が出ました。

これを広めることで【質問2】

いろんな人が来て町がにぎわう

という良いことがあります。

みんなに知ってもらうためには【質問3】

PR動画を作ってテレビSNS等で宣伝

テーマ

みんなのまちを広めよう！！

発表シート 6年 2組 E班

私たちのグループでは【質問1】で

施設(サウスピア店.コンビニ.雑貨
老人ホーム.保育園)

という意見が出ました。

これを広めることで【質問2】

地域活性化(人口増)
施設増.観光客増.楽しく暮らせる)

という良いことがあります。

みんなに知ってもらうためには【質問3】

ネット(ユーチューブ.ツイッター.SNS
など)

します。

テーマ

みんなのまちを広めよう！！

発表シート 6年 3組 B班

私たちのグループでは【質問1】で

交通の便がよく
ラーメンがおいしい

という意見が出ました。

これを広めることで【質問2】

人口や観光客が増え、
ラーメン屋がもうかる。

という良いことがあります。

みんなに知ってもらうためには【質問3】

口コミ ネット ポスター
広告 CM 映画(翔んで
武蔵浦和!)

(発表者氏名)

します。

テーマ

みんなのまちを広めよう！！

発表シート 6年 4組 (班)

私たちのグループでは【質問1】で

自然災害が少ない。

という意見が出ました。

これを広めることで【質問2】

住みたいと思う若者が増えて、住民税が
もらえるから、さらにサービスを提供できる。

という良いことがあります。

みんなに知ってもらうためには【質問3】

インターネット、SNSなどを通して、良い所を
アピールする。

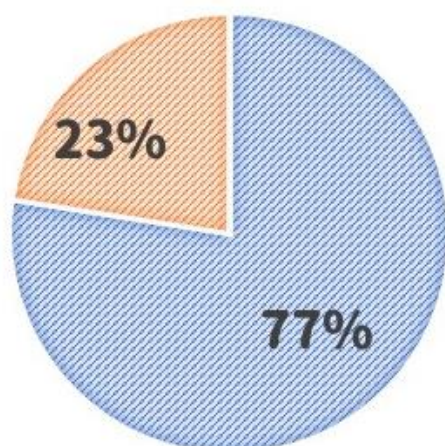
します。

(発表者氏名

プログラム終了後の児童向けアンケート結果

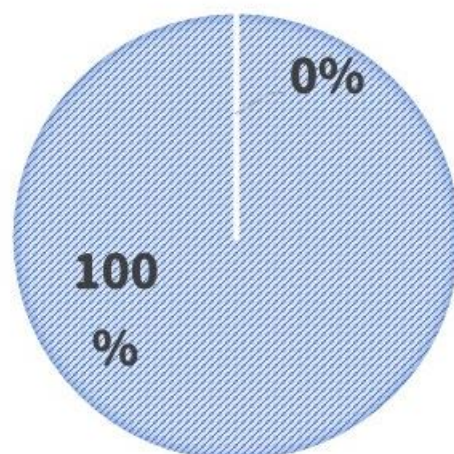
(1) 今回の授業で、日本の政治がどのように行われているか理解できましたか？

■ よく理解できた ■ まあまあ理解できた
■ あまり理解できなかった ■ 全く理解できなかった



(2) 投票することで、自分の意思をしっかりと発言することが重要であると感じましたか？

■ 重要であると感じた ■ 重要であると感じなかった



解 説

プログラム終了後に実施した児童へのアンケートによると、全ての児童が日本の政治がどのように行われているかを「理解できた」と回答し「自身の意思を発言することが重要だと感じた」と回答しました。

また、自由回答形式で行った「特に勉強になったこと・楽しかったこと」という質問については、「自身の意思を発言することの大事さ」について記載する児童が多かったと共に、「実際の投票を体験できた」という意見が多数あり、児童に政治参画の実体験を強く印象付けることができたと考えます。

プログラム終了後の児童向けアンケート結果（一例）

1 今回の授業で楽しかったことがあれば教えてください

実際の投票箱でやったこと。

2 今回の授業で、日本の政治がどのように行われているか理解できましたか？

☒ よく理解できた。
☐ まあまあ理解できた。
☐ あまり理解できなかった。
☐ 全く理解できなかった。

3 投票することで自分の意思をしっかりと発言することが重要であると感じましたか？

☒ 重要であると感じた。
☐ 重要であると感じなかった。

4 今回の授業を受けて、特に勉強になったと思うことを教えてください。

自分の意見をしっかりと言うことが大切だと
あらためて思いました。

5 18歳になって選挙に行けるようになったら、投票に行こうと思いますか？

☒ 絶対投票に行きたい。
☐ どちらかといえば投票に行きたい。
☐ あまり投票に行きたくない。
☐ 全く投票に行きたくない。

1 今回の授業で楽しかったことがあれば教えてください

選挙を本格的にできた
Eケル-7

2 今回の授業で、日本の政治がどのように行われているか理解できましたか？

☒ よく理解できた。
☐ まあまあ理解できた。
☐ あまり理解できなかった。
☐ 全く理解できなかった。

3 投票することで自分の意思をしっかりと発言することが重要であると感じましたか？

☒ 重要であると感じた。
☐ 重要であると感じなかった。

4 今回の授業を受けて、特に勉強になったと思うことを教えてください。

すべて自分の意見だけじゃなく周りの人の
意見も大切ということ

5 18歳になって選挙に行けるようになったら、投票に行こうと思いますか？

☒ 絶対投票に行きたい。
☐ どちらかといえば投票に行きたい。
☐ あまり投票に行きたくない。
☐ 全く投票に行きたくない。

1 今回の授業で楽しかったことがあれば教えてください

したことのない選挙を体験できたこと。

2 今回の授業で、日本の政治がどのように行われているか理解できましたか？

☒ よく理解できた。
☐ まあまあ理解できた。
☐ あまり理解できなかった。
☐ 全く理解できなかった。

3 投票することで自分の意思をしっかりと発言することが重要であると感じましたか？

☒ 重要であると感じた。
☐ 重要であると感じなかった。

4 今回の授業を受けて、特に勉強になったと思うことを教えてください。

自分の意見で日本の政治を変えられるということが
分かってすごく勉強になりました。

5 18歳になって選挙に行けるようになったら、投票に行こうと思いますか？

☒ 絶対投票に行きたい。
☐ どちらかといえば投票に行きたい。
☐ あまり投票に行きたくない。
☐ 全く投票に行きたくない。

1 今回の授業で楽しかったことがあれば教えてください

選挙について授業では体験できない事ができてとても楽し
かったです。非、自分達の意見をまとめられた良かったです。

2 今回の授業で、日本の政治がどのように行われているか理解できましたか？

☒ よく理解できた。
☐ まあまあ理解できた。
☐ あまり理解できなかった。
☐ 全く理解できなかった。

3 投票することで自分の意思をしっかりと発言することが重要であると感じましたか？

☒ 重要であると感じた。
☐ 重要であると感じなかった。

4 今回の授業を受けて、特に勉強になったと思うことを教えてください。

自分の意見がこれからの政治にとっても大切だ。という事
を教えてもらえてうれしかったです。

5 18歳になって選挙に行けるようになったら、投票に行こうと思いますか？

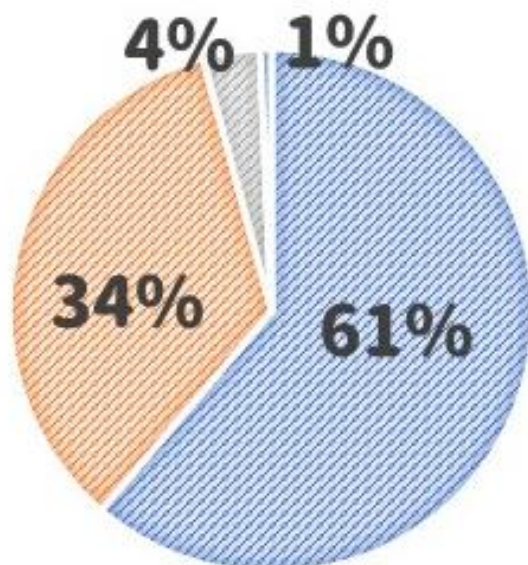
☒ 絶対投票に行きたい。
☐ どちらかといえば投票に行きたい。
☐ あまり投票に行きたくない。
☐ 全く投票に行きたくない。

ご協力ありがとうございました。

プログラム終了後の児童向けアンケート結果

(3) 18歳になって選挙に行けるようになったら、投票に行こうと思いますか？

- 絶対に行きたい
- どちらかといえば行きたい
- あまり行きたくない
- 全く行きたくない
- 未回答



解 説

また、「実際に投票にいきたいか」という質問に対しては、90%以上の児童が「行きたい」と回答しました。

政治を身近に感じることができ、かつ将来的に全員が政治参画への意識を持てるようになることが分かりました。今後は、単発的ではなく継続的かつ段階的に主権者教育を行っていく必要性も感じました。

みらいく教師担当者からの一言



2019年度 資質向上委員会 運営幹事

吉住 孔佑 (よしずみ こうすけ)

クラス 6年1組担当

一番良かった点は、本物の投票箱を使って投票することで、「早く本物の投票をしてみたい」「すごく緊張したけど経験できて良かった」と、児童から言ってもらえたことです。開催した意義があったと思います。

また、グループの政策を決める際、児童たちがとても真剣に話し合っていたことも良かったと思います。自分たちの町の良いところを本気になって考える時間は良い経験になったと思います。「災害に強い。治安が良い。税収に増やす。都心へのアクセスが良い…」など大人顔負けの意見には驚きました。

さらに、クラス内での政策発表に関しても、CM動画のように演じて発表する代表者の子がいたり、と1分半の発表方法にも工夫をしていて、私の想像以上でした。

今後の課題は、班ごとに終わる時間や発表自体に差ができてしまったことです。また参加しない子が出ないようにすることも大事で、進行サポート役の役割が重要かと思います。今後、グループ毎の進行サポート役に対しての事前レクチャーが必要だと考えます。



2019年度 資質向上委員会 副委員長

阿部 哲男 (あべ てつお)

クラス 6年2組担当

実際の選挙でも使用される投票箱や記入台を使い、投票所での流れを体験してもらったことで、実際の選挙の雰囲気を感じてもらえたと思います。将来、選挙権が与えられたときにも、気軽に投票してもらえるのではないかと考えます。

グループごとの意見は活発だったし、まちの良いところの意見は多種多様だったかと思います。しかし、まちの良い点を社会に拡散させる手法が、グループ間でかなり重複していた（SNSで発信するなど）ので、グループごとの意見のバリエーションが豊富とは言えなかったと思います。今後のテーマ設定に関しての課題かと考えました。

みらいく教師担当者からの一言



2019年度 資質向上委員会 副委員長

関根 大介 (せきね だいすけ)

クラス 6年3組担当

実際の投票箱を使って、且つ、私語厳禁という場を設けたことで、子どもたちがいい意味で、非常に緊張感をもって選挙の重要性を疑似体験できたと思われます。

一方で、対象が子どもだったため、時間配分にはかなり気を使ったつもりではいたものの、それでも最後の発表シートへの記入は想定以上に時間がかかった。次回開催の際は、かなり前倒しで進行していく必要があると感じました。グループ毎につく進行役によってかなりグループ議論の活性度合に差があったように感じられたため、次回以降の開催は進行役のレベルアップも必要かと思います。



2019年度 資質向上委員会 書記幹事

向山 寛 (むこうやま ひろし)

クラス 6年4組担当

子供が政治や投票に関心を持ったり触れ合えるという事が一番のメリットだと思います。具体的には課題自体の問題などがありますが、子供達が1つの事に対して、自分の意見を発信し合って話し合うという事です。

また、子供達だけではなく教師役などの大人側も子供達と接したり、普段味わえない体験をする貴重な機会だと感じました。

課題としては、子供達側の目線の場合は課題の選定や時間の設け方がまだまだ準備不足だと感じました。大人側からすると、こういう機会をもっと多くするためにはどうしたら良いかと平日にすると参加できる人が限られてくるので、そのあたりの選定を次回以降検討したいと思います。

本プログラム実施後の青年会議所としての考察

● 「みらいく」のメリット

- ・選挙を「**実体験**」することの効果は児童の未来への意識を育むための効果的な手法であると考えます。
- ・地域の大人が率先して、「**直接的に**」児童とコミュニケーションをとり、主体性の大切さを伝えることで子どもたちが積極的に発言しようとする意識に繋がります。さらに、大人自身も児童に教えることで、その大切さを「**再認識する機会**」となります。

● 「みらいく」の課題

- ・今回の実施のみでは、直接的に将来の**投票率向上**に繋がるかどうかは**不明確**。また、今回は少額6年生1校のみの実施であったため、より「**継続的**」かつ「**広域**」での展開も検討すべきと考えます。
- ・一方で、「**継続的**」かつ「**広域**」での展開となると、埼玉中央青年会議所のみでの実施では、プログラムの効果や影響が**限定的になってしまう**と考えます。
- ・プログラムの効果を高めるために、教える側もより**レベルアップ**する必要があります。



本プログラム実施を受けての埼玉中央青年会議所からのご提案

地域内の多くの大人も参加できるよう、
教育委員会と青年会議所を含めた団体・企業と
連携した展開を今後検討していきたいと考えます。

↓ 読売新聞（2019年3月7日）

統一地方選を前に、さいたま市南区の市立浦和大里小学校で5日、模擬選挙を通じて政治を身近に感じてもらう「みらいくんさいたま」が開かれ、6年生約140人が参加した。

主催する埼玉中央青年会議所の約50人と4学級の6年生が班

**模擬選挙で
政治身近に**

浦和大里小

実際の選挙で使われる投票箱で模擬選挙を体験する児童ら（5日、さいたま市立浦和大里小で）

に分かれ、さいたま市の良さや、それを広く知ってもらうアイデアを話し合い、各学級で発表した。

「自然災害の少なさをアピールして住みたいと思う若者を増やし、税収増につなげる」と現実的な意見も出て、同会議所のメンバーを驚かせた。その後、投票票が行われ、各学級で最も票を集めた班が発表された。

別府良祐君（12）は「自分の意見が採用され、投票箱で投票できて楽しかった」と話していた。

約70人が10対90のジャンボの巻きを完成させた。

ひなまつりは、地域住民らで作る清久地区コミュニティ協議会が2004年から開催。ジャンボの巻き作りはメインイベントとして06年に長さ6対30から始まった。毎年長くなり、今年は地元産のコメ10kgを使

↓ 埼玉新聞（2019年3月8日）

「政治は生活に密着」

浦和大里小 主権者教育 まちの将来討論

子どもたちに主権者として考えを主張したり、他と協力して社会を生きる力を育んでもらおうとする特別教室が、さいたま市南区の市立浦和大里小学校で行われ、6年生140人が自分たちの住むまちの将来について互いに考えた。意見を出し合った児童は「政治は子どもたちの生活にも密着している」と理解を深めた様子だった。（新井護）

埼玉中央青年会議所（JC）が提供する教育プログラム「若者に政治を身近に感じてもらうためのプログラム」をいくつかの「innさいたま」として実施。同会議所のメンバーが同校を訪れ、主権者としての社会参画のあり方を身近な例で学んだ。

児童は班に分かれ、自分の住むまちの「良いところ」を「自慢できるところ」について考えて発表。同じ班の別の児童の意見を聞き、班の意見をまとめた。「これを広めるとどんないいことがあるか」「これを皆に知ってもらうにはどうすればいいか」をまとめ、

班ごとに班としての考えを発表した。児童は自分の住むまちの良いところとして「電車がいっぱい通っている」「おいしいラーメン屋がある」などと説明。それを広める利点については「客が大勢来る」「税収が増える」といった意見が出され、それぞれがまちづくりの可能性を考えた。

その後、実際の選挙で使用する投票箱と記載台を使い、投票を体験。クラスごとに代表意見を投票で選出した。

同JCの木田高史理事長（38）は「子どもの時から投票を体験した佐久間大希

君（12）は「食いつ違つ意見もあったが、協力して取りまとめた。政治は子どもには関係ないかと思つたが、実際には生活に密着している。18歳までに投票のことを考えたい」と真剣な表情。森本彩姫さん（12）は「投票は難しく、緊張したが体験できてよかった。政治は私たちの生活に関係があり、自分の意見を述べる大切さを学んだ」と話していた。

票を身近に感じ、有権者になるまでに、まちを考える時間を持つてほしい」と期待を寄せた。



「自分たちのまちの良いところを広める利点」を班でまとめ、それぞれ発表し合った児童たち＝さいたま市南区の市立浦和大里小学校